美術科学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
第５校時　13:30～14:20
学校名　中学校
対　象　第２学年
会　場　美術室
授業者　〇〇　〇〇

１　題材名「空間に光を飾ろう」

Ａ表現（１）イ㋐　（２）ア㋐（㋑）　Ｂ鑑賞（１）ア㋑
共通事項（１）ア　イ

２　題材の目標

（１）「知識及び技能」に関する目標

・　形や色彩、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。

・　和紙や、木材など、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。

・　材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す。

（２）「思考力・判断力・表現力」に関する目標

・　ランプシェードを使う目的や条件などを基に、用いる場面や環境などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、構想を練る。

・　ランプシェードの目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

（３）「学びに向かう力、人間性」に関する目標

・　美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能などを考えた表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

３　題材の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　形や色彩、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果や造形的な特徴な	①　ランプシェードを使う目的や条件などを基に、用いる場面や環境などから主題を生み出し、美的感覚を	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能などを考えた表現や

どを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 ② 和紙や、木材など、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。 ③ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。	働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、構想を練っている。 ② 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4　指導観

（1）題材観

本題材は、中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）美術

〔第２学年及び３学年〕　２　内容

A　表現

（1）　表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

イ　伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ)　構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。

（2）　表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。

ア　発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ)　材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

(ｲ)　材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すこと。

B　鑑賞

（1）　鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア　美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｲ)　目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図

と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

（1）「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ　造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

を受けて設定した。

本題材は、日常生活や、公共施設、劇場空間で活用されている光の効果に着目して、生徒が主題設定し、空間を装飾するランプシェードをデザインする。和紙、木材、竹ひご等を用いて、それぞれの材料の特性を生かして制作する。身近にある照明について、造形的な美しさなどを感じ取り、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考え、構想を深め制作していく。

（2） 生徒観

第２学年では、木工芸や塑像の制作、画材の種類や性質の学びを経て、材料や用具の特性を生かし、それぞれの題材において自分の取組を振り返り、次への目標を立てながら制作に取り組んできた。制作する意欲は高く、クラスで教え合いながら取り組むことができる。また、小学校の図画工作で光の造形に親しんだ経験があり、LED ランプの扱いや、材料の生かし方を試行錯誤できる。しかし、構想段階で悩む生徒が多く、結果的に似た形の作品になってしまうことがある。制作に当たって、「どこで」、「どのような」といったことから構想を広げ、機能や用途を確認させる。

（3） 教材観

木材や、和紙の扱いは第１学年で既習し、用意する材料もこれまで小学校で触れたことのあるものを選定した。和紙がもつ光の透け方や、竹ひごが熱で曲がるなど材料の特性を生かし、材料や用具を試行錯誤できる時間を設けた。また、制作途中の様子を写真撮影して振り返り活動をすることで、制作の見通しがもてるようにした。美術室の用具の場所や、作品の保管場所が生徒の目線からも分かるよう配置を工夫した。

・　授業者が準備するもの

タブレット端末・LED ランプ・単三乾電池・和紙・竹ひご（３ミリ、５ミリ）・木材・藤蔓・風船・針金・ニッパー・木工用接着剤・カッター・カセットコンロ

・　生徒が用意するもの

教科書・タブレット端末・筆記用具・はさみ・のり

５　年間指導計画による位置付け

	題材名	学習内容
第１学年	ウッドジュエリーデザインに挑戦 木工芸の世界へようこそ	構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練り、意図に応じて工夫して制作する。

第2学年	空間に光を飾ろう（本時）	空間を装飾するランプシェードをデザインし、それぞれの材料の特性を生かして制作する。身近にある照明について、造形的な美しさなどを感じ取り、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考え、構想を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫して制作する。
第3学年	ボックスアート	自分の気持ちや心情（嬉しさ、緊張、不安、楽しさなど）を基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、意図に応じて表現方法を創意工夫して表現する。

6　題材の指導計画と評価計画（全 12 時間）

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準		評価方法等
			内容	記録	
第1時	光のデザインについて、身近なものから空間にもたらす効果を学ぶ。	・ 身近にある明かりや照明を鑑賞する。 ・ 光の形や空間の変化を理解する。	ア① ウ①	○	ワークシート
第2時	材料や用具を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。	・ 和紙の加工の可能性を試す。 ・ 竹ひごや藤のツルなどを加工して直線、曲線の表現を実験する。	ア② ウ①	○	作品
第3時	使う目的や条件などを基に、用いる場面や環境などから主題を生み出し、構想を練る。	・ アイデアスケッチを行う。	イ① ウ①	○	記録
第4時 第5時 第6時	材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す。	・ 制作を行う。	ア② イ① ウ①	○ ○	観察 作品
第7時	表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。	・アイデアスケッチを並べ、友達と比較鑑賞して作者の意図を読み取り、よいところや改善点について意見交換をする。	イ② ウ①	○ ○	ワークシート 作品
第8時 第9時	材料や用具、表現方法の特性などから制作	・ 前時の取組を生かして、ランプシェードを完成させる。	ア② ア③	○	観察

第10時 (本時) 第11時	の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す。		イ① ウ①	○	作品 活動の様子
第12時	制作活動を振り返り、生活を豊かにする美術の働きについて見方や感じ方を深める。	・ 生徒作品を鑑賞し、自分の作品について説明や話合い活動を通して作品の意図を感じ取る。	イ② ウ①	○	記録

7 指導に当たって

（1） 授業力の６要素について工夫・改善したこと

・ 生徒理解

学級の人数が 20 名ほどであることから、一人一人の構想に寄り添って制作ができると考え、取組カードを作成した。生徒が毎回の授業で取り組んだことを振り返り、制作についての質問をし、毎回の授業で提出する。返却時、毎回の授業で必ず学級全員に言葉掛けをできるようにした。

・ 教材解釈、教材開発

明かりのデザインについて、材料を和紙、木材等に限定することで、削る、切る、つなげる等の制作の見通しをもちやすくした。また和紙の加工や藤蔓、竹の性質について理解させるため、いろいろと試してみる時間を設けるようにした。

（2） 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、工夫・改善したこと

・ 第１時で明かりの鑑賞、第８時で途中経過の作品について意見交流、第 12 時で鑑賞や振り返り活動を設定し、生徒と意見交換ができるようにする。

8 本時（全 12 時間中の第 10 時）

（1） 本時の目標

材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す。

（2） 本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○ 前時の提出物から、本時の目標を確認する。	・ 前時までに自分の作品を振り返った内容が確認できるよう指示する。	
展開① 35分	○ 制作物や材料等を取りに行く。 ○ 取組カードを各生徒に配布しながら制作の進捗状況を確認して言葉掛けを行う。	・ 刃物は安全に配慮しながら活動させる。 ・ 制作の中の疑問や質問を直接授業者とやりとりする。	ア②、③ （観察）

	○　全体に暗室の使い方や、明かりの感じを確認する。	・　LED ランプの操作方法や色味の変化を確認して明かりの変化を知る。	ウ① （活動の様子）
展開②５分	○　制作物を写真撮影し、本日の活動を振り返る。	・　生徒の制作状況によっては、暗室を活用して写真撮影を促す。	イ① （作品）
まとめ５分	○　制作物について他の生徒の取組を鑑賞し、次回へ生かす。 ・　次回の活動や質問について取組カードに記入する。	・　本日の活動を言語化する。 ・　退室時に取組カードを提出する。	

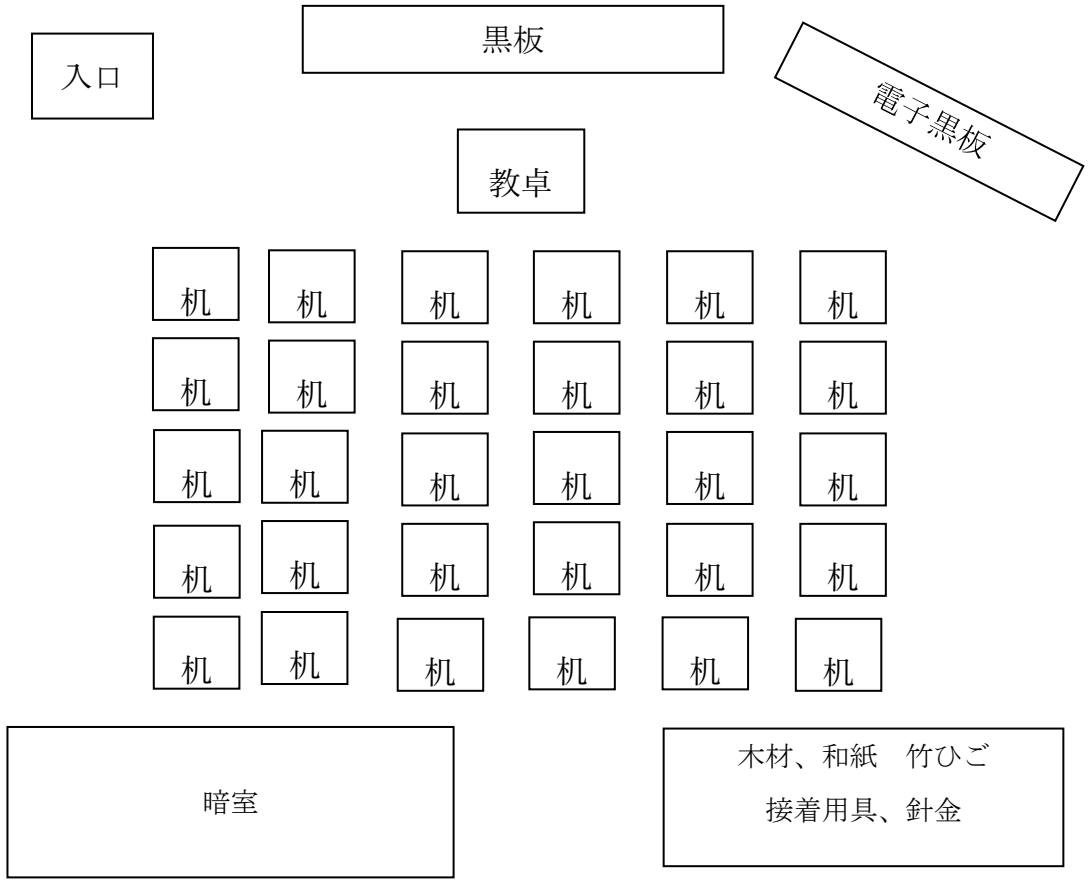
（3）板書計画

題材名　「空間に光を飾ろう」

今日の目標「暗室を活用して、自分の作りたい明かりを具体的にイメージしよう」

学習活動の流れ	考える視点	提出物
・材料を取りに行く ・取組カードを確認する ・制作に生かす ・片付け ・振り返り	・制作の手順を確認しながら、完成のイメージをもって制作を行う。	・制作画像 ・取組カード

（4）学習環境



（5）授業観察の視点

・　取組カードを配布し、一人一人の制作の進捗を確認したことは、表現方法の特性などを踏まえ制作の順序などを総合的に考えるのに有効であったか。

・　授業の振り返りにおいて写真を撮影し次回の取組を記入させたことは、制作の見通しをもって表現するのに有効であったか。